

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
専門学校東京ホスピタリティ・アカデミー		昭和54年10月1日		千葉 敦		〒 162-0843 (住所) 東京都新宿区市谷田町3-21 (電話) 03-3235-5713			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人21世紀アカデメイア		昭和42年1月12日		田坂 広志		〒 101-0062 (住所) 東京都千代田区神田駿河台2-11 (電話) 03-3292-0662			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
商業実務	観光専門課程		ブライダル学科 ブライダルフラワー専攻		平成12(2000)年度	-		平成27(2015)年度	
学科の目的	ニーズが多様化しているブライダル業界が求める「ウエディングプランナー」の育成を目的とする。 ①企業と連携した実習授業を行いブライダル業界における高い専門的な技術と知識を習得を図る。 ②一般教養としてビジネスマナーやコミュニケーション能力の工業を目指す。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	(資格・検定等) BIAブライダルコーディネイター技能検定、レストランサービス技能検定 (中退率)0%□								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,792 単位時間	1,152 単位時間	0 単位時間	1,408 単位時間	0 単位時間	
				単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)				
70 人	0 人		0 人		0 %				
就職等の状況	■卒業者数(C) : 0 人								
	■就職希望者数(D) : 0 人								
	■就職者数(E) : 0 人								
	■地元就職者数(F) 0 人								
	■就職率(E/D) 0 %								
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) 0 %								
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) 0 %								
	■進学者数 0 人								
	■その他								
	(令和 6 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 卒業生0									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL								
当該学科のホームページURL	https://www.tit.ac.jp/department/bridal/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)								
	総授業時数				2,560 単位時間				
教員の属性(専任教員について記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				32 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位時間				
	うち必修授業時数				1,792 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				32 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				64 単位時間				
	(B:単位数による算定)								
	総授業時数				単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位				
うち必修授業時数				単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位					
	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				1 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				1 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				人				
	計				2 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				2 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

昨今の結婚式におけるニーズは多様化しており、業界では、結婚を決意したカップルが結婚式を迎えるまで、どのタイミングでどのような業務を行うのか、その業務に必要な知識は何かを幅広く身に付けている人材が求められている。

ブライダル学科では、これに対応するため、結婚式に関わる多くの職種を株式会社FeelingDesignと連携し幅広く実践的に学べるような教育課程を編成している。婚礼時の花嫁の支度に関する知識と技術はブライダル業界でも根幹をなす知識とスキルであり、特にブライダルフラワー専攻では、新郎新婦にコーディネートするブーケや花束のイメージの起点となるものであり、株式会社エッセと連携し婚礼衣装の着付け等を実践的に学ぶ。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には、年度内に2回の開催を原則とし、シラバスを基に、各科目の授業目的や授業内容が業界のニーズに応えたものになっているかを、教員へのヒアリングを交えながら確認し、より実践に即したカリキュラムとなるよう、改善策を提案し、課程を反映するものである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年9月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
西田 篤史	株式会社Feeling Design	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
鷺坂 伸子	株式会社エッセ	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
磯部 浩昭	東京ホスピタリティ・アカデミー	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月20日 15:00～17:00

第2回 令和7年3月27日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

編成委員より改めて、人間力、コミュニケーション力を高める授業の必要性を指摘された。

それを受け令和6年度のカリキュラムより以下の改善を実施する。

①「コミュニケーションスキル」授業を企業と連携した実習授業に改善し、より専門的な能力の向上を図る。

②それぞれの授業のつながりを持たせられるよう情報共有の徹底。

③SNS時代に適応したマーケティングの授業の設置。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル学科では、多様化するニーズに対応できる幅広い業務知識をもった人材を輩出することを目指している。この目標を実現するためには実務に関する実践的な授業を行うことが必要である。

そこで学科では、企業・業界団体等と連携し、業界のトレンド等に関する情報の提供及び校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力が得られる企業・業界団体を選定している。また、校内の実習の実施にあたり、企業等からの課題を提示し、同企業の講師による定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業・団体を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社エッセとの連携により、「ブライダル知識」において、業界が求めるスキルの習得やスタイリング力など表現力能力の向上を図っている。

さらに同企業より学期末において学習成果の評価を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ブライダル知識 (トータルコーディネート実習)	新婦のウェディングドレス及び新郎のタキシードの着付方法を実習を通じて学ぶことにより、ブライダル業界が求めるスキルの向上を目指す。	株式会社エッセ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

②指導力の修得・向上のための研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	「ブライダル業界の最新動向について」	連携企業等：	ブライダル産業新聞
期間：	令和7年6月9日	対象：	ブライダル学科職員
内容	ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	教育現場におけるコーチング	連携企業等：	日本スクールコーチ協会
期間：	令和6年6月5日 15:30～17:00	対象：	全教職員
内容	コーチングの基本となる考え方を学び、教育現場での学生への活用をのし方を学んだ。		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	「ブライダル業界の最新動向について」	連携企業等：	ブライダル産業新聞
期間：	令和8年6月10日	対象：	ブライダル学科職員
内容	ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	アカデミックハラスメント研修	連携企業等：	NPOアカデミックハラスメントをなくすネットワーク
期間：	令和7年12月	対象：	全教職員
内容	アカデミックハラスメントの事例をもとに、学生とのコミュニケーション方法や学内での報告体制づくりなどアカハラ防止に向けた対応を学ぶ。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができているか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関係業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法、内容、ガバナンスの3つの柱を基本に評価をいただく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	専門分野の特性は明確になっているか、将来構想はあるか、など
(2)学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3)教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、など
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5)学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(7)学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8)財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9)法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11)国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

資格対策授業の運営方法として、直前の特別講座の運営を、レベル別クラスに分割して行うなど、より学生の状況にあわせてものとした。また、ボランティアも積極的に斡旋するようにした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
高木 友子	公益財団日本ケアフィット共育機構	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	協会役員
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	協会役員
木村 克也	特定非営利活動法人 日本マナー・プロトコル協会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	協会役員
西田 篤史	株式会社Feeling Design	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業役員
小林 隆	有限会社東武旅行サービス	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業役員
米倉 洲	東武トップツアーズ株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html>

公表時期: 令和7年9月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していくものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2)各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3)教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6)学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7)学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8)学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9)学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11)その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html>

公表時期: 令和7年9月1日

授業科目等の概要

#REF!

	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			就職対策	就職活動に必要な自己分析、自己PR、志望動機、履歴書の書き方などの力を身に付ける	1 後 2 前	64	4	○			○		○		
2	○			ビ ジ ネ ス マ ナー	「秘書検定2級」取得を目指しながら、会社の仕組み、人間関係の構築の仕方、敬語、ビジネス文書の書き方などのマナーを身に付ける。	1 前 2 後	64	4	○			○		○		
3	○			業界研究	ブライダル業界における職種や企業研究	1 後 2 通	96	6	○			○		○		
4	○			ウエディング セレモニー	結婚式の各スタイルにおけるしきたりを学び、模擬挙式の発表を行う	1 通	96	6			○	○		○	○	
5	○			ヘアメイク実 習 (ガーデニン グ・園芸実 習)	草木や花の育て方を学ぶ	1 前	64	4			○	○			○	
6	○			フラワー実習	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケやヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	1 前	64	4			○	○			○	
7	○			衣装知識 (フラワー知 識)	花に関する知識を学ぶ	1 通	64	4	○			○			○	
8	○			フォーマルウ ェア検定 (各種概論)	観光業界全般について学ぶことで、視野を広げ、各自が目指す業界との関係を学ぶ	1 後	32	2	○			○		○		
9	○			レストラン サービス技能 士 (ブライダル 情勢論)	ブライダル業界における各職種のトレンドを学ぶ	1 通 2 前	96	6	○			○		○		
10	○			パーティー サービス実習 (披露宴制作 Ⅰ)	披露宴を行うために必要な役割、準備の仕方、流れを実習を通じて学ぶ	1 通 2 通	##	8			○	○		○	○	
11	○			舞台演出 (披露宴制作 Ⅱ)	模擬披露宴の準備から発表までを各自が主体的に行う	1 後 2 前	64	4			○	○		○	○	

12	○		空間コーディネーター	披露宴会場などの空間のコーディネートに関する技術を身に付ける	1 後 2 通	96	6			○	○			○	
13	○		テーブルコーディネーター	花やバルーンを使ったテーブルコーディネートの方法を学ぶ	1 後	32	2			○	○			○	
14	○		ブライダル知識 (ブライダルファッション実習)	ウエディングドレスの着付け、小物の合わせ方を学ぶ	1 後	32	2			○	○			○	○
15	○		カラーコーディネーター	色彩検定対策	1 通 2 前	96	6	○			○			○	
16	○		接客英語 (筆記対策 (一般常識))	就職試験に向けた基礎学力をつける	1 前	32	2	○			○			○	
17	○		ユニバーサルホスピタリティ (ブライダルゼミ)	産学協同に向けた実践	1 通	64	4	○			○			○	
18	○		PC実習	Word, Excel, Powerpointなどの基本的操作を身に付ける	1 通	64	4			○	○			○	
19	○		インターンシップ	実践力を身に付けるため、企業で研修を行う	1 後	64	4			○		○			
20	○		和装着付け	和装の知識と着付けの技術を身に付ける	2 前	32	2			○	○			○	
21	○		ビバレッジ実習 (立ち振る舞い)	接客業に必要な立ち居振る舞いを身に付ける	2 通	64	4			○	○			○	
22	○		MC実習 (接客実習 (プレゼンテーション))	接客の際に必要なお客様への提案の仕方を学ぶ	2 前	32	2			○	○			○	
23	○		コーディネーター実務 (ウエディングプランナー実務)	ウエディングプランナーの実務を学ぶことで、結婚式の準備の流れを学ぶ	2 通	64	4	○			○			○	

24	○		空間デザイン (P C)	店舗内の装飾を学ぶ	2 前	32	2	○			○		○	
25	○		ディスプレイ デコレーション (P O P・ち らし作成)	フラワーショップでの仕事の際に必要なPOP やチラシの作成方法を学ぶ	2 後	32	2			○	○		○	
26	○		ウェディング プロデュース (キャリアプ ランニング)	一般常識を学びつつ、社会に出てからの キャリアの積み方を考える	2 前	32	2	○			○		○	
27	○		ウェディング アイテムデザ イン (ラッピング 実習)	花束やフラワーアレンジメントのラッピン グの技術を身に付ける	2 後	64	4			○	○		○	
28	○		A B C検定対 策	アシスタントブライダルコーディネーター 検定対策	2 後	32	2	○			○		○	
29	○		卒業制作	2年間習得してきたことをもとにブライダル 業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	2 後	64	4			○	○		○	○
30	○		スキルアップ	就職活動に必要な面接、グループディス カッションなどの力を集中的に見に付ける	2 前	32	2	○			○		○	
31		○	フー ド コー ディネーター	TOEICスコア向上のための海外留学	1 通 2 通	##	8	○				○		○
32		○	英検対策&T O E I C	実用英語検定の取得やTOEICスコア向上を目 指す	1 通 2 前	##	12	○			○		○	○
33		○	手話	接客に必要な手話を学ぶ	1 後 2 通	96	6			○	○		○	
34		○	ヘアメイク実 習	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	2 通	64	4			○	○		○	
35		○	エステ実習	肌の構造を知り、エステティックの基礎を 学ぶ	2 通	64	4			○	○		○	
36		○	ネイル実習	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェル ネイル技能検定の取得を目指しつつネイリ ストとしての技術を身に付ける	2 通	64	4			○	○		○	

37			○	フラワーキャ リアアップ	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケ やヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	2 通	64	4			○	○			○
38			○	カ ラ ー コ ー ディネート	色彩検定対策	2 後	32	2	○			○			○
39			○	海外研修旅行	海外のチャペルやホテルを見学する	1 後 2 後	64	4			○		○	○	
合計					39 科目				2560 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：108単位以上を取得。その内必修科目は104単位以上取得しなければな		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる		1 学期の授業期間	16 週

- (留意事項)
- 1

一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合

については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2

企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
専門学校東京ホスピタリティ・アカデミー		昭和54年10月1日		千葉 敦		〒 162-0843 (住所) 東京都新宿区市谷田町3-21 (電話) 03-3235-5713			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人21世紀アカデメイア		昭和42年1月12日		田坂 広志		〒 101-0062 (住所) 東京都千代田区神田駿河台2-11 (電話) 03-3292-0662			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
商業実務	観光専門課程		ブライダル学科 ウエディングプランナー専攻		平成12(2000)年度	-	平成27(2015)年度		
学科の目的	ニーズが多様化しているブライダル業界が求める「ウエディングプランナー」の育成を目的とする。 ①企業と連携した実習授業を行いブライダル業界における高い専門的な技術と知識を習得を図る。 ②一般教養としてビジネスマナーやコミュニケーション能力の工業を目指す。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	(資格・検定等) BIAブライダルコーディネイター技能検定、レストランサービス技能検定 (中退率)0%□								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,920 単位時間	1,632 単位時間	0 単位時間	1,440 単位時間	0 単位時間	
				単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)				
70 人	10 人		0 人		0 %				
就職等の状況	■卒業者数(C) : 9 人								
	■就職希望者数(D) : 9 人								
	■就職者数(E) : 9 人								
	■地元就職者数(F) : 9 人								
	■就職率(E/D) 100 %								
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) 100 %								
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) 100 %								
	■進学者数 0 人								
	■その他								
	(令和 6 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) ブライダル業界、ホテル業界									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL								
当該学科のホームページURL	https://www.tit.ac.jp/department/bridal/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)								
	総授業時数				3,072 単位時間				
教員の属性(専任教員について記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				32 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位時間				
	うち必修授業時数				1,920 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				32 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				128 単位時間				
	(B:単位数による算定)								
	総授業時数				単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位				
うち必修授業時数				単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位					
	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				1 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				1 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				人				
	計				2 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				2 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

昨今の結婚式におけるニーズは多様化しており、業界では、結婚を決意したカップルが結婚式を迎えるまで、どのタイミングでどのような業務を行うのか、その業務に必要な知識は何かを幅広く身に付けている人材が求められている。ブライダル学科では、これに対応するため、結婚式に関わる多くの職種を幅広く実践的に学べるような教育課程を編成している。婚礼時の花嫁の支度に関する知識と技術はブライダル業界でも根幹をなす知識とスキルであり、新郎新婦にコーディネートするブーケや花束のイメージの起点となるものであり、企業と連携し婚礼衣装の着付け等を実践的に学ぶ。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には年度2回の開催を原則とし、教育課程編成委員会をもって学科カリキュラムを決定していく。1回目は前年度のカリキュラムの検証をおこない、よりよいカリキュラムを構成するための改善案を検討し、必要に応じて実施措置をとる。2回目は変更したカリキュラムの経過をみながらさらに検討を加え、改善措置ならびに次年度カリキュラムの確認を行うものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年9月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
西田 篤史	株式会社Feeling Design	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
鷺坂 伸子	株式会社エッセ	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
磯部 浩昭	東京ホスピタリティ・アカデミー	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月20日 15:00～17:00

第2回 令和7年3月27日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

編成委員より改めて、人間力、コミュニケーション力を高める授業の必要性を指摘された。

それを受け令和6年度のカリキュラムより以下の改善を実施する。

- ①「コミュニケーションスキル」授業を企業と連携した実習授業に改善し、より専門的な能力の向上を図る。
- ②それぞれの授業のつながりを持たせられるよう情報共有の徹底。
- ③SNS時代に適応したマーケティングの授業の設置。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル学科では、多様化するニーズに対応できる幅広い業務知識をもった人材を輩出することを目指している。この目標を実現するためには実務に関する実践的な授業を行うことが必要である。

そこで学科では、企業・業界団体等と連携し、業界のトレンド等に関する情報の提供及び校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力が得られる企業・業界団体を選定している。また、校内の実習の実施にあたり、企業等からの課題を提示し、同企業の講師による定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業・団体を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社エッセとの連携により、「ブライダル知識」において、業界が求めるスキルの習得やスタイリング力など表現力能力の向上を図っている。

さらに同企業より学期末において学習成果の評価を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ブライダル知識 (トータルコーディネート実習)	新婦のウェディングドレス及び新郎のタキシードの着付方法を実習を通じて学ぶことにより、ブライダル業界が求めるスキルの向上を目指す。	株式会社エッセ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

①専門分野における実務に関する研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

②指導力の修得・向上のための研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 「ブライダル業界の最新動向について」	連携企業等：ブライダル産業新聞
期間： 令和7年6月9日	対象：ブライダル学科職員
内容： ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 教育現場におけるコーチング	連携企業等：日本スクールコーチ協会
期間： 令和6年6月5日 15:30～17:00	対象：全教職員
内容： コーチングの基本となる考え方を学び、教育現場での学生への活用をのし方を学んだ。	

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 「ブライダル業界の最新動向について」	連携企業等：ブライダル産業新聞
期間： 令和8年6月10日	対象：ブライダル学科職員
内容： ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名： アカデミックハラスメント研修	連携企業等：NPOアカデミックハラスメントをなくすネットワーク
期間： 令和7年12月	対象：全教職員
内容： アカデミックハラスメントの事例をもとに、学生とのコミュニケーション方法や学内での報告体制づくりなどアカハラ防止に向けた対応を学ぶ。	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができているか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関連業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法・内容、ガバナンスの3つの柱を基本とした運営面を評価いただく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか、など
(2)学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3)教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、など
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5)学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(7)学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8)財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9)法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11)国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

資格対策授業の運営方法として、直前の特別講座の運営を、レベル別クラスに分割して行うなど、より学生の状況にあわせてのものとした。また、ボランティアも積極的に斡旋するようにした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
高木 友子	公益財団日本ケアフィット共育機構	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	協会役員
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	協会役員
木村 克也	特定非営利活動法人 日本マナー・プロトコール協会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	協会役員
西田 篤史	株式会社Feeling Design	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業役員
小林 隆	有限会社東武旅行サービス	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業役員
米倉 洲	東武トップツアーズ株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html>

公表時期: 令和7年9月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していくものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2)各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3)教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6)学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7)学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8)学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9)学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11)その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html>

公表時期: 令和7年9月1日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			ブライダルビジネス実務Ⅰ (業界研究)	ブライダル業界における職種や企業研究	1通	##	8	○			○		○		
2	○			ブライダルビジネス実務Ⅱ (ウエディング グセレモニー (挙式))	結婚式の各スタイルにおけるしきたりを学び、模擬挙式の発表を行う	1通	64	4			○	○		○	○	
3	○			ブライダルビジネス実務Ⅲ (検定対策)	ウエディングプランナー検定、ドレスコーディネーター検定取得のための検定対策。いずれかを選択する	1通	64	4	○			○		○		
4	○			就職対策・ビジネスマナー	就職活動に必要な自己分析、自己PR、志望動機、履歴書の書き方、また「秘書検定2級」取得を目指しながら、会社の仕組み、人間関係の構築の仕方、敬語、ビジネス文書の書き方などのマナーを身に付ける。	1通 2通	##	8	○			○		○		
5	○			接客英語 (筆記対策 (一般常識))	就職試験に向けた基礎学力をつける	1通	64	4	○			○			○	
6	○			料飲サービス実務Ⅰ (披露宴制作ⅠⅡ)	披露宴を行うために必要な役割、準備の仕方、流れを実習を通じて学び模擬披露宴の準備から発表までを各自が主体的に行う	1通 2通	##	10			○	○		○	○	
7	○			料飲サービス実務Ⅱ (FBサービス実習Ⅰ) (立ち振る舞い)	宴会場やレストランにおけるテーブルセッティングおよび料理などのサービスの仕方や、接客業に必要な立ち居振る舞いを身に付ける	1通 2通	##	10			○	○		○	○	
8	○			料飲サービス実務Ⅲ (ブライダルマーケティング & セールス) (海外ウエディング実務)	売るための仕組みを理論で学び海外挙式やハネムーンの手配に必要な実務を学ぶ	1通	##	8	○			○		○	○	
9	○			ブライダルビジネス実習Ⅰ (披露宴知識)	披露宴に必要な事柄の由来などを学ぶことで、披露宴に対する知識を深める	1通	64	4	○			○		○		
10	○			ブライダルビジネス実習Ⅱ (インターンシップ)	実践力を身に付けるため、企業で研修を行う	1通	64	4			○		○			
11	○			ブライダル知識 (ブライダルファッション実習)	ウエディングドレスの着付け、小物の合わせ方を学ぶ	1後	32	2			○	○			○	○

12	○		リアルビジネスⅠ (ブライダルゼミ)	産学協同に向けた実践	1前	32	2	○			○		○	
13	○		リアルビジネスⅡ (卒業制作)	2年間習得してきたことをもとにブライダル業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	1後 2後	64	4			○	○		○	○
14	○		リアルビジネスⅢ (卒業制作)	2年間習得してきたことをもとにブライダル業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	2前	32	2	○			○		○	○
15	○		演出論 (選曲・演出知識)	結婚式や披露宴の各場面に合わせた音楽の選び方、演出方法などを学ぶ	1通	64	4	○			○			○
16	○		パソコン実習	Word, Excel, Powerpointなどの基本的操作を身に付ける	1通 2通	##	8			○	○			○
17	○		ホスピタリティ産業概論Ⅱ (各種概論)	観光業界全般について学ぶことで、視野を広げ、各自が目指す業界との関係を学ぶ	1前	32	2	○			○		○	
18	○		ウェディングプロデュース論 (ウェディングプランナー知識&実習)	ウェディングプランナーの実務を学ぶ	2通	##	8	○			○			○
19	○		コーディネーター実務 (空間コーディネート&フラワー実習)	バルーンやフラワーを使用し、披露宴会場の装飾について学ぶ	2通	64	4			○	○			○
20	○		演出概論 (ブライダル情勢論)	ブライダル業界における各職種のトレンドを学ぶ	2通	##	8	○			○		○	
21	○		パーティー実務 (MC実習)	披露宴の司会進行を実践的に学ぶ	2通	##	8			○	○			○
22	○		パーティーセールス (教養科目)	各自の就職先に合わせ、社会に出る前にさらに力を付けておきたい科目を3科目選択する。 (FBサービス実習Ⅱ、アテンダー実習、ネイル実習、和装着付け、フラワーアレン	2通	64	4			○	○			○
23		○	検定対策	レストランサービス技能検定3級・フォーマルウエア検定・色彩検定等の取得を目指す	1通 2通	##	16	○			○			○
24		○	検定補習	レストランサービス技能検定3級・フォーマルウエア検定・色彩検定等の取得のための補習授業	1通 2通	##	16	○				○		○
25		○	語学	実用英語検定の取得やTOEICスコアの向上を目指す	1通 2通	##	16			○	○		○	○
26		○	メイク	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	1通 2通	##	8			○	○		○	
27		○	フラワー	ブーケ及び会場装飾の為の花の技術を身に付ける	1通 2通	##	8	○			○			○
28		○	インターンシップ	実践力を身に付けるため、企業で研修を行う	1通	##	8			○		○		

合計	28 科目	3072 単位（単位時間）
----	-------	---------------

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 108単位以上を取得。その内必修科目は104単位以上取得しなければな	1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1 学期の授業期間	16 週

- (留意事項)
- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
専門学校東京ホスピタリティ・アカデミー		昭和54年10月1日		千葉 敦		〒 162-0843 (住所) 東京都新宿区市谷田町3-21 (電話) 03-3235-5713			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人21世紀アカデメイア		昭和42年1月12日		田坂 広志		〒 101-0062 (住所) 東京都千代田区神田駿河台2-11 (電話) 03-3292-0662			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
商業実務	観光専門課程		フライタル学科 フライタル ビューティー専攻		平成12(2000)年度	-	平成27(2015)年度		
学科の目的	ニーズが多様化しているブライダル業界が求める「ウエディングプランナー」の育成を目的とする。 ①企業と連携した実習授業を行いブライダル業界における高い専門的な技術と知識を習得を図る。 ②一般教養としてビジネスマナーやコミュニケーション能力の工業を目指す。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	(資格・検定等) BIAブライダルコーディネイター技能検定、レストランサービス技能検定 (中退率)0%□								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総 単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼間	※単位時間、単位いづれ かに記入		1,792 単位時間	1,184 単位時間	0 単位時間	1,760 単位時間	0 単位時間	
				単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)				
70 人	0 人		0 人		0 %				
就職等の状況	■卒業者数(C) : 0 人								
	■就職希望者数(D) : 0 人								
	■就職者数(E) : 0 人								
	■地元就職者数(F) 0 人								
	■就職率(E/D) 0 %								
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) 0 %								
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) 0 %								
	■進学者数 0 人								
	■その他								
	(令和 6 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 卒業生0									
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載した ホームページURL								
当該学科の ホームページ URL	https://www.tit.ac.jp/department/bridal/								
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単位時間による算定)								
	総授業時数				2,944 単位時間				
				うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 32 単位時間					
				うち企業等と連携した演習の授業時数 0 単位時間					
				うち必修授業時数 1,792 単位時間					
				うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 32 単位時間					
				うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 0 単位時間					
				(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) 64 単位時間					
(B:単位数による算定)									
総授業時数				単位					
				単位					
				単位					
				単位					
				単位					
				単位					
				単位					
教員の属性(専任教員について記入)									
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等において その担当する教育等に従事した者であって、当該専門課 程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六 年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				1 人					
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				1 人					
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				人					
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				人					
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				人					
計				2 人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の 実務の能力を有する者を想定)の数				2 人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

昨今の結婚式におけるニーズは多様化しており、業界では、結婚を決意したカップルが結婚式を迎えるまで、どのタイミングでどのような業務を行うのか、その業務に必要な知識は何かを幅広く身に付けている人材が求められている。ブライダル学科では、これに対応するため、結婚式に関わる多くの職種を幅広く実践的に学べるような教育課程を編成している。婚礼時の花嫁の支度に関する知識と技術はブライダル業界でも根幹をなす知識とスキルであり、新郎新婦にコーディネートするブーケや花束のイメージの起点となるものであり、企業と連携し婚礼衣装の着付け等を実践的に学ぶ。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には年度2回の開催を原則とし、教育課程編成委員会をもって学科カリキュラムを決定していく。1回目は前年度のカリキュラムの検証をおこない、よりよいカリキュラムを構成するための改善案を検討し、必要に応じて実施措置をとる。2回目は変更したカリキュラムの経過をみながらさらに検討を加え、改善措置ならびに次年度カリキュラムの確認を行うものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年9月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
西田 篤史	株式会社Feeling Design	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
鷺坂 伸子	株式会社エッセ	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
磯部 浩昭	東京ホスピタリティ・アカデミー	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月20日 15:00～17:00

第2回 令和7年3月27日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

編成委員より改めて、人間力、コミュニケーション力を高める授業の必要性を指摘された。

それを受け令和6年度のカリキュラムより以下の改善を実施する。

①「コミュニケーションスキル」授業を企業と連携した実習授業に改善し、より専門的な能力の向上を図る。

②それぞれの授業のつながりを持たせられるよう情報共有の徹底。

③SNS時代に適応したマーケティングの授業の設置。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル学科では、多様化するニーズに対応できる幅広い業務知識をもった人材を輩出することを目指している。この目標を実現するためには実務に関する実践的な授業を行うことが必要である。

そこで学科では、企業・業界団体等と連携し、業界のトレンド等に関する情報の提供及び校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力が得られる企業・業界団体を選定している。また、校内の実習の実施にあたり、企業等からの課題を提示し、同企業の講師による定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業・団体を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社エッセとの連携により、「ブライダル知識」において、業界が求めるスキルの習得やスタイリング力など表現力能力の向上を図っている。

さらに同企業より学期末において学習成果の評価を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ブライダル知識 (トータルコーディネーター実習)	新婦のウェディングドレス及び新郎のタキシードの着付け法を実習を通じて学ぶことにより、ブライダル業界が求めるスキルの向上を目指す。	株式会社エッセ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

①専門分野における実務に関する研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

②指導力の修得・向上のための研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	「ブライダル業界の最新動向について」	連携企業等：	ブライダル産業新聞
期間：	令和7年6月9日	対象：	ブライダル学科職員
内容	ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	教育現場におけるコーチング	連携企業等：	日本スクールコーチ協会
期間：	令和6年6月5日 15:30～17:00	対象：	全教職員
内容	コーチングの基本となる考え方を学び、教育現場での学生への活用をのし方を学んだ。		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	「ブライダル業界の最新動向について」	連携企業等：	ブライダル産業新聞
期間：	令和8年6月10日	対象：	ブライダル学科職員
内容	ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	アカデミックハラスメント研修	連携企業等：	NPOアカデミックハラスメントをなくすネットワーク
期間：	令和7年12月	対象：	全教職員
内容	アカデミックハラスメントの事例をもとに、学生とのコミュニケーション方法や学内での報告体制づくりなどアカハラ防止に向けた対応を学ぶ。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができているか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関連業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法・内容、ガバナンスの3つの柱を基本とした運営面を評価いただく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか、など
(2)学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3)教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、など
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5)学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(7)学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8)財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9)法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11)国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

資格対策授業の運営方法として、直前の特別講座の運営を、レベル別クラスに分割して行うなど、より学生の状況にあわせてのものとした。また、ボランティアも積極的に斡旋するようにした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
高木 友子	公益財団日本ケアフィット共育機構	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	協会役員
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	協会役員
木村 克也	特定非営利活動法人 日本マナー・プロトコール協会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	協会役員
西田 篤史	株式会社Feeling Design	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業役員
小林 隆	有限会社東武旅行サービス	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業役員
米倉 洲	東武トップツアーズ株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html>

公表時期: 令和7年9月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していくものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2)各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3)教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6)学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7)学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8)学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9)学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11)その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html>

公表時期: 令和7年9月1日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			就職対策	就職活動に必要な自己分析、自己PR、志望動機、履歴書の書き方などの力を身に付ける	1 後 2 前	64	4	○			○		○		
2	○			ビ ジ ネ ス マ ナー	「秘書検定2級」取得を目指しながら、会社の仕組み、人間関係の構築の仕方、敬語、ビジネス文書の書き方などのマナーを身に付ける。	1 前 2 後	64	4	○			○		○		
3	○			業界研究	ブライダル業界における職種や企業研究	1 後	32	2	○			○		○		
4	○			ウエディング セレモニー	結婚式の各スタイルにおけるしきたりを学び、模擬挙式の発表を行う	1 通	96	6			○	○		○	○	
5	○			ヘアメイク実 習	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	1 通	##	8			○	○			○	
6	○			フラワー実習	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケやヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	1 前	64	4			○	○			○	
7	○			衣裳知識	衣裳に関する知識とドレスサロンにおける実務を学ぶ	1 通	64	4	○			○		○		
8	○			ネイル実習	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイリストとしての技術を身に付ける	1 通	64	4			○	○			○	
9	○			レ ス ト ラ ン サービス技能 士 (ブライダル 情勢論)	ブライダル業界における各職種のトレンドを学ぶ	1 前	32	2	○			○		○		
10	○			パ ー テ ィ ー サービス実習 (披露宴制作 Ⅰ)	披露宴を行うために必要な役割、準備の仕方、流れを実習を通じて学ぶ	1 通	64	4			○	○		○	○	
11	○			舞台演出 (披露宴制作 Ⅱ)	模擬披露宴の準備から発表までを各自が主体的に行う	1 後 2 前	64	4			○	○		○	○	
12	○			ブライダル知 識 (ブライダル ファッション 実習)	ウエディングドレスの着付け、小物の合わせ方を学ぶ	1 後	32	2			○	○			○	○
13	○			フォーマルウ ェア知識 (各種概論)	観光業界全般について学ぶことで、視野を広げ、各自が目指す業界との関係を学ぶ	1 通	64	4	○			○		○		
14	○			ユニバーサル ホ ス ピ タ リ ティ (ブライダル ゼミ)	産学協同に向けた実践	1 通	64	4			○	○			○	
15	○			カ ラ ー コ ー ディネート (パーソナル カラー)	各お客様に似合うカラーの見極め方を学ぶ	1 通 2 通	##	8	○			○			○	

16	○		ファッション販売検定 (筆記対策 (一般常識))	就職試験に向けた基礎学力をつける	1 後 2 前	64	4	○				○			○
17	○		インターン シップ	実践力を身に付けるため、企業で研修を行う	1 後	64	4			○		○			
18	○		和装着付け (和装実習& 知識)	和装の知識と着付けの技術を身に付ける	2 前	32	2			○	○				○
19	○		MC実習 (披露宴制作 Ⅱ)	模擬披露宴の準備から発表までを各自が主体的に行う	2 前	32	2			○	○		○	○	
20	○		コーディネーター実務 (立ち振る舞い)	接客業に必要な立ち居振る舞いを身に付ける	2 通	64	4			○	○				○
21	○		A B C検定対策 (A B C検定対策)	アシスタントブライダルコーディネーター検定対策	2 後	32	2	○			○				○
22	○		卒業制作	2年間習得してきたことをもとにブライダル業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	2 後	64	4			○	○		○	○	
23	○		スキルアップ	就職活動に必要な面接、グループディスカッションなどの力を集中的に見に付ける	2 前	32	2	○			○		○		
24		○	ヘアメイク実習Ⅱ	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	2 通	##	8			○	○				○
25		○	エステ実習	肌の構造を知り、エステティックの基礎を学ぶ	2 通	##	8			○	○				○
26		○	ネイルエキスパート (ネイル実習)	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイリストとしての技術を身に付ける	2 通	64	4			○	○				○
27		○	アロマセラピー (ネイル実習)	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイリストとしての技術を身に付ける	2 通	64	4			○	○				○
28		○	パーソナルカラー	各お客様に似合うカラーの見極め方を学ぶ	2 通	##	8	○			○				○
29		○	衣装販売テクニック (和装実習& 知識)	和装の知識と着付けの技術を身に付ける	2 通	64	4			○	○				○
30		○	ウェディングアイテムデザイン	ドレスに合わせる小物類の製作	2 通	64	4	○			○				○
31		○	和装知識 (和装ヘアメイク)	和装の際のヘアメイクの技術を身に付ける	2 前	32	2			○	○				○
32		○	ドレスメンテナンス (アテンダー実習)	介添えの方法を身に付ける	2 前	32	2			○	○				○
33		○	ドレススタイルデザイン (衣装トータルコーディネート)	新郎新婦のトータルの衣装の合わせ方、小物類の合わせ方を学ぶ	2 後	32	2			○	○				○
34		○	ドレスコーディネート (衣装トータルコーディネート)	新郎新婦のトータルの衣装の合わせ方、小物類の合わせ方を学ぶ	2 後	32	2			○	○				○
35		○	ネイル実習	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイリストとしての技術を身に付ける	1 後 2 通	96	6	○			○				○

36		○	PC実習	Word, Excel, Powerpointなどの基本的操作を身に付ける	1通	64	4	○				○		○	
37		○	手話	接客に必要な手話を学ぶ	1後2通	96	6			○	○			○	
38		○	接客英語	接客で使う英語のスキル向上を目指す	1前	32	2	○			○		○	○	
39		○	英会話	英語力の語学向上を図る	1後2通	96	6	○			○			○	
40		○	ブライダルビジネス論	ブライダル業界全般について学ぶ	1前2通	32	2	○			○		○		
41		○	ヘアメイクキャリアアップ	ブライダルヘアメイクの技術をさらに向上させる	2通	##	8			○	○			○	
42		○	レストランサービス技能士	国家資格取得に向けての検定対策	2前	32	2	○			○		○		
43		○	フラワー実習	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケやヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	2通	64	4			○	○			○	
44		○	空間コーディネーター	披露宴会場などの空間のコーディネートに関する技術を身に付ける	2後	32	2			○	○			○	
45		○	ブライダル情勢論	ブライダル業界における各職種のトレンドを学ぶ	2前	32	2	○			○			○	
46		○	海外研修旅行	海外のチャペルやホテルを見学する	1後2後	64	4			○		○	○		
合計					46 科目	2944 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：108単位以上を取得。その内必修科目は104単位以上取得しなければならぬ		1学年の学期区分	2期
履修方法：必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる		1学期の授業期間	16週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
専門学校東京ホスピタリティ・アカデミー		昭和54年10月1日		千葉 敦		〒 162-0843 (住所) 東京都新宿区市谷田町3-21 (電話) 03-3235-5713			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人21世紀アカデメイア		昭和42年1月12日		田坂 広志		〒 101-0062 (住所) 東京都千代田区神田駿河台2-11 (電話) 03-3292-0662			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
商業実務	観光専門課程		ブライダル学科 ドレススタイリスト専攻		平成12(2000)年度	-	平成27(2015)年度		
学科の目的	ニーズが多様化しているブライダル業界が求める「ウェディングプランナー」の育成を目的とする。 ①企業と連携した実習授業を行いブライダル業界における高い専門的な技術と知識を習得を図る。 ②一般教養としてビジネスマナーやコミュニケーション能力の工業を目指す。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	(資格・検定等) BIAブライダルコーディネイター技能検定、レストランサービス技能検定 (中退率)0%□								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,792 単位時間	1,216 単位時間	0 単位時間	1,728 単位時間	0 単位時間	
				単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)				
70 人	1 人		0 人		0 %				
就職等の状況	■卒業者数(C) : 1 人								
	■就職希望者数(D) : 1 人								
	■就職者数(E) : 1 人								
	■地元就職者数(F) : 1 人								
	■就職率(E/D) 100 %								
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) 100 %								
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) 100 %								
	■進学者数 0 人								
	■その他								
	(令和 6 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) ブライダル業界、ホテル業界									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL								
当該学科のホームページURL	https://www.tit.ac.jp/department/bridal/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)								
	総授業時数				2,944 単位時間				
教員の属性(専任教員について記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				32 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位時間				
	うち必修授業時数				1,792 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				32 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				64 単位時間				
	(B:単位数による算定)								
	総授業時数				単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位				
うち必修授業時数				単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位					
	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				1 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				1 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				人				
	計				2 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				2 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

昨今の結婚式におけるニーズは多様化しており、業界では、結婚を決意したカップルが結婚式を迎えるまで、どのタイミングでどのような業務を行うのか、その業務に必要な知識は何かを幅広く身に付けている人材が求められている。ブライダル学科では、これに対応するため、結婚式に関わる多くの職種を幅広く実践的に学べるような教育課程を編成している。婚礼時の花嫁の支度に関する知識と技術はブライダル業界でも根幹をなす知識とスキルであり、新郎新婦にコーディネートするブーケや花束のイメージの起点となるものであり、企業と連携し婚礼衣装の着付け等を実践的に学ぶ。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には年度2回の開催を原則とし、教育課程編成委員会をもって学科カリキュラムを決定していく。1回目は前年度のカリキュラムの検証をおこない、よりよいカリキュラムを構成するための改善案を検討し、必要に応じて実施措置をとる。2回目は変更したカリキュラムの経過をみながらさらに検討を加え、改善措置ならびに次年度カリキュラムの確認を行うものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年9月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
西田 篤史	株式会社Feeling Design	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
鷺坂 伸子	株式会社エッセ	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
磯部 浩昭	東京ホスピタリティ・アカデミー	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月20日 15:00～17:00

第2回 令和7年3月27日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

編成委員より改めて、人間力、コミュニケーション力を高める授業の必要性を指摘された。

それを受け令和6年度のカリキュラムより以下の改善を実施する。

- ①「コミュニケーションスキル」授業を企業と連携した実習授業に改善し、より専門的な能力の向上を図る。
- ②それぞれの授業のつながりを持たせられるよう情報共有の徹底。
- ③SNS時代に適応したマーケティングの授業の設置。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル学科では、多様化するニーズに対応できる幅広い業務知識をもった人材を輩出することを目指している。この目標を実現するためには実務に関する実践的な授業を行うことが必要である。

そこで学科では、企業・業界団体等と連携し、業界のトレンド等に関する情報の提供及び校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力が得られる企業・業界団体を選定している。また、校内の実習の実施にあたり、企業等からの課題を提示し、同企業の講師による定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業・団体を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社エッセとの連携により、「ブライダル知識」において、業界が求めるスキルの習得やスタイリング力など表現力能力の向上を図っている。

さらに同企業より学期末において学習成果の評価を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ブライダル知識 (トータルコーディネート実習)	新婦のウェディングドレス及び新郎のタキシードの着付け方法を実習を通じて学ぶことにより、ブライダル業界が求めるスキルの向上を目指す。	株式会社エッセ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

①専門分野における実務に関する研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

②指導力の修得・向上のための研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 「ブライダル業界の最新動向について」	連携企業等： ブライダル産業新聞
期間： 令和7年6月9日	対象： ブライダル学科職員
内容： ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 教育現場におけるコーチング	連携企業等： 日本スクールコーチ協会
期間： 令和6年6月5日 15:30～17:00	対象： 全教職員
内容： コーチングの基本となる考え方を学び、教育現場での学生への活用をのし方を学んだ。	

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 「ブライダル業界の最新動向について」	連携企業等： ブライダル産業新聞
期間： 令和8年6月10日	対象： ブライダル学科職員
内容： ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名： アカデミックハラスメント研修	連携企業等： NPOアカデミックハラスメントをなくすネットワーク
期間： 令和7年12月	対象： 全教職員
内容： アカデミックハラスメントの事例をもとに、学生とのコミュニケーション方法や学内での報告体制づくりなどアカハラ防止に向けた対応を学ぶ。	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができているか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関連業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法・内容、ガバナンスの3つの柱を基本とした運営面を評価いただく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか、など
(2)学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3)教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、など
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5)学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(7)学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8)財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9)法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11)国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

資格対策授業の運営方法として、直前の特別講座の運営を、レベル別クラスに分割して行うなど、より学生の状況にあわせてのものとした。また、ボランティアも積極的に斡旋するようにした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
高木 友子	公益財団日本ケアフィット共育機構	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	協会役員
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	協会役員
木村 克也	特定非営利活動法人 日本マナー・プロトコール協会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	協会役員
西田 篤史	株式会社Feeling Design	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業役員
小林 隆	有限会社東武旅行サービス	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業役員
米倉 洲	東武トップツアーズ株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html>

公表時期: 令和7年9月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していくものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2)各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3)教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6)学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7)学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8)学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9)学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11)その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html>

公表時期: 令和7年9月1日

授業科目等の概要

#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			就職対策	就職活動に必要な自己分析、自己PR、志望動機、履歴書の書き方などの力を身に付ける	1 後2前	64	4	○			○		○		
2	○			ビジネスマナー	「秘書検定2級」取得を目指しながら、会社の仕組み、人間関係の構築の仕方、敬語、ビジネス文書の書き方などのマナーを身に付ける。	1 前2後	64	4	○			○		○		
3	○			業界研究	ブライダル業界における職種や企業研究	1 後2前	64	4	○			○		○		
4	○			ウエディングセレモニー	結婚式の各スタイルにおけるしきたりを学び、模擬挙式の発表を行う	1 通	96	6			○	○		○	○	
5	○			ヘアメイク実習	ヘアメイクの基礎を身に付ける	1 通	##	8			○	○			○	
6	○			フラワー実習	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケやヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	1 前	64	4			○	○			○	
7	○			衣装知識 (ドレスメーカーキング)	オリジナルドレスの製作をすることでドレスが店頭に出るまでの流れ、ドレスの構造を学ぶ	1 通	64	4			○	○			○	
8	○			ネイル実習	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイルリストとしての技術を身に付ける	1 通	64	4			○	○			○	
9	○			レストランサービス技能士 (ブライダル情勢論)	ブライダル業界における各職種のトレンドを学ぶ	1 前	32	2	○			○		○		
10	○			パーティーサービス実習 (披露宴制作Ⅰ)	披露宴を行うために必要な役割、準備の仕方、流れを実習を通じて学ぶ	1 通	64	4			○	○		○	○	
11	○			舞台演出 (披露宴制作Ⅱ)	模擬披露宴の準備から発表までを各自が主体的に行う	1 後2前	64	4			○	○		○	○	
12	○			ブライダル知識 (ブライダルファッション実習)	ウエディングドレスの着付け、小物の合わせ方を学ぶ	1 後	32	2			○	○			○	○
13	○			フォーマルウェア知識 (各種概論)	観光業界全般について学ぶことで、視野を広げ、各自が目指す業界との関係を学ぶ	1 通	64	4	○			○		○		
14	○			ユニバーサルホスピタリティ (ブライダルゼミ)	産学協同に向けた実践	1 通	64	4			○	○			○	

15	○		カラーコーディネート (パーソナルカラー)	各お客様に似合うカラーの見極め方を学ぶ	1通 2通	##	8	○			○			○
16	○		ファッション 販売検定対策 (筆記対策 (一般常識))	就職試験に向けた基礎学力をつける	1後 2前	64	4	○			○			○
17	○		インターン シップ	実践力を身に付けるため、企業で研修を行う	1後	64	4			○		○		
18	○		MC実習 (立ち振る舞い)	接客業に必要な立ち居振る舞いを身に付ける	2前	32	2			○	○			○
19	○		コーディネーター実務 (ドレスコーディネーター実務)	ドレスコーディネーターとしての実務を学ぶ	2通	64	4			○	○			○
20	○		A B C 検定対策	アシスタントブライダルコーディネーター検定対策	2後	32	2	○			○			○
21	○		卒業制作	2年間習得してきたことをもとにブライダル業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	2後	64	4			○	○		○	○
22	○		スキルアップ	就職活動に必要な面接、グループディスカッションなどの力を集中的に見に付ける	2前	32	2	○			○		○	
23		○	パーソナルカラー	各お客様に似合うカラーの見極め方を学ぶ	2通	##	8	○			○			○
24		○	衣装販売テクニック (ドレスコーディネーター実務)	ドレスコーディネーターとしての実務を学ぶ	2通	64	4			○	○			○
25		○	ネイルエキスパート	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイルリストとしての技術を身に付ける	2通	64	4			○	○			○
26		○	ヘアメイク実習Ⅱ	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	2通	##	8			○	○			○
27		○	エステ実習 (サロン実習)	ドレスサロンにおける接客を学ぶ	2前後	##	8			○	○		○	
28		○	ウエディング アイテムデザイン	ドレスに合わせる小物類の製作	2通	64	4			○	○			○
29		○	アロマテラピー (フォーマルウエア検定対策)	フォーマルウエア検定対策	2通	64	4	○			○			○
30		○	ドレスメンテナンス (衣装メンテナンス)	ドレスコーディネーターの業務の一つである衣装メンテナンスの技術を身に付ける	2前	32	2			○	○		○	
31		○	和装知識 (和装実習&知識)	和装の知識と着付けの技術を身に付ける	2前	32	2			○	○			○
32		○	ドレスコーディネート (衣装トータルコーディネート)	新郎新婦のトータルの衣装の合わせ方、小物類の合わせ方を学ぶ	2後	32	2	○			○			○
33		○	ドレススタイルデザイン (衣装スタイル知識)	婚礼衣装に関わる各スタイルの違いを学ぶ	2後	32	2	○			○			○

34		○	ネイル実習	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイルリストとしての技術を身に付ける	1 前 2 通	96	6	○			○			○	
35		○	PC実習	Word, Excel, Powerpointなどの基本的操作を身に付ける	1 通	64	4	○				○		○	
36		○	手話	接客に必要な手話を学ぶ	1 後 2 通	96	6			○	○			○	
37		○	接客英語	接客で使う英語のスキル向上を目指す	1 前	32	2	○			○		○	○	
38		○	英会話	英語力の語学向上を図る	1 後 2 通	96	6	○			○			○	
39		○	ブライダルビジネス論	ブライダル業界全般について学ぶ	1 後	32	2	○			○		○		
40		○	ヘアメイクキャリアアップ	ブライダルヘアメイクの技術をさらに向上させる	2 通	##	8			○	○			○	
41		○	レストランサービス技能士	国家資格取得に向けての検定対策	2 前	32	2	○			○		○		
42		○	フラワー実習	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケやヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	2 通	64	4			○	○			○	
43		○	空間コーディネート	披露宴会場などの空間のコーディネートに関する技術を身に付ける	2 後	32	2	○			○			○	
44		○	ブライダル情勢論	ブライダル業界における各職種のトレンドを学ぶ	2 前	32	2	○			○			○	
45		○	海外研修旅行	海外のチャペルやホテルを見学する	1 後 2 後	64	4			○		○	○		
合計					45 科目	2944 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：108単位以上を取得。その内必修科目は104単位以上取得しなければならぬ		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる		1 学期の授業期間	16 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。